

論述ブースト No.8

研究者・医師の二つの顔を論じる

—— 医学研究の意義と限界を答案に組み込む

目標：「臨床医」と「研究者」の二役を担う医師の役割について論じる力を養う。医学研究の意義（患者への還元・知識創出）と限界（不確実性・利益相反・再現性問題）を構造的に論証できるようにする。

授業の仕掛け（直感への衝撃）

導入：「医師は患者を診るべきか、研究をすべきか？」→ 二項対立で考える生徒が多い。しかし現代医学は「両者を統合する医師」がイノベーションを生む。

核心：研究する医師の3課題：①研究の社会的意義 ②研究倫理（IC・利益相反） ③研究成果の臨床応用の橋渡し（translational research）

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 医学研究・研究者と医師で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

医学研究・研究者と医師では、*研究の意義と限界の根拠*が答案の質を大きく左右します。

② 医学研究・研究者と医師で採点者が見ているポイント

「研究の意義と限界を両方示した答案」が採点者に「批判的思考をしている」と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所